

・ 運転代行の役割

運転代行とは、主に夜間の酔客の代わりに、客を客の車に乗車させ、代行の車が客車の後ろを追従して、依頼された目的地まで客と客車を運ぶ仕事。

2008年8月の福岡県海ノ中道大橋で起きた幼い3児が無くなる悲惨な事故や、一昨年小樽で起きた女性三人が飲酒暴走の車にひき逃げされた事件、昨年砂川市で起きた一家5人が死傷する事件など、危険運転や免脱罪などの厳罰化の動きがあってもなお、未だ無ならない飲酒運転をゼロにするために、飲酒運転根絶の受け皿として、「地域に無くてはならない交通サービス」の位置付けである。昨今はゴルフ場、宴会場、ホテルなど、日中の飲酒の機会に合わせた依頼に対応するところも増えている。

・ 利用するメリット

当然のことながら飲酒運転に対する世間の目は厳しく、道交法で定められた飲酒運転、酒気帯び運転で摘発、検挙されれば、罷免、懲戒免職、懲戒解雇など、社会的な制裁（ダメージ）は計り知れない。

また、失職、失業することで家庭崩壊を招き、一家離散という結果にもなりかねない。

酒類を提供する飲食店にあっても、車を運転することを知りながら提供した場合、運転を止めなかった場合、同じく罪に問われ、閉店・倒産となることもある。

同乗者も運転者と同罪とみなされることになる。

イベント会場でのアンケート結果から、「車で飲みに行くことがおかしい」という意見が多数を占めるが、実態として駐車場併設の飲食店があり、営業時間帯に満車であることを考えれば、車で出掛けるものを止められる環境にはない。とすれば、飲んだあとにその車を運転させないことの徹底が必要となる。その大きな抑止力となるのが運転代行であり、飲食場所から自宅（依頼された指定場所）までの数千円で運転代行を利用することにより、法的責任、社会的責任、道義的責任の全てが守られることになる、ということをよく考えてほしい。

・ 道東の運転代行の発展（現状）

公共交通機関の発達していない地方の移動手段として発展してきた業界で、発展の意味合いにも依るが、事業者数という意味ではH14年に自動車運転代行の業務の適正化に関する法律（代行業法）が施行されて以降、確かに増えている。乱立していると言ってもよいほどの飽和状態である。

これが低料金化や、随伴車に客を乗せる白タク行為の横行など、適正とは言えない過当競争に拍車をかけているのが現状である。

・ 運転代行利用促進のための課題

1. 客の依頼だけでなく、飲食店からの白タク行為の強要がある。
白タクが違法だと知らない人が非常に多いが、明らかな法律違反である。
2. 代行料金をタクシーと比較して高いと判断するのはやめてほしい。
3. 自宅を知られたくない、料金が高すぎる、などの理由で、途中下車しないほしい。
4. 水際での抑止として、飲食店との連携が不可欠。

・ 利用促進のための関係者への周知

1. 白タクについて、

店などの出発点から客の車の駐車場所までの、業界でいわゆるAB間輸送と言われる移動であっても、随伴用自動車に客が乗ることは禁止されているのに、出発点から指定場所までのAC間移動（白タク・タクシー類似行為）を平然と行ったり、これを勧誘する業者もいる。しかし、元々随伴用自動車には、代行のドライバーしか乗らない業者側の移動手段として随伴するものであり、万が一随伴車で事故が起きたとき、任意保険に入っている客（ご自身たち）が補償されない可能性が非常に高い。代行の法律以前に、白タクは道路運送法で一般ドライバーに対しても禁止されている行為なので、絶対に利用しないでほしい。勧誘に乗らないでほしい。店は強要しないでほしい。

2. 料金について、

タクシーは同じ二種免許のドライバーが運転して客を送り届ける輸送サービスだが、タクシーはひとりでいつも同じ車を運転しているのに対し、代行は2人一組で毎回違う車を運転する仕事である。中型の一部までのトラックから左ハンドルの外車、ジープ、ハイルーフのワンボックスから軽自動車まで、依頼を受けた時点や、店に行って初めて客車の条件がわかることもあり、非常に高度なスキルを求められる仕事で、しかも一回の依頼に2人分の人件費が掛かるものである。タクシーより安い料金を要求されるのは、代行の仕事に対する認識が違う。代行が高いというイメージは捨ててほしい。

3. 途中下車について、

2.にも通じるところだが、料金もったいないからという理由で途中下車をするということは、車で飲みに行くのに、飲食代は予算を立てていても、代行⇒帰りの交通手段の予算を見ていないということになるのではないか。また、自宅を知られたくない、というご意見については、業界として安心して利用してもらえるように努めなければならないと痛感するところであるが、ドライバーの自己紹介がある、代行の連絡先が明確である、随伴車の表示が明確、料金がはっきりしている、など信頼できる業者を選んでもらうことで、ほんの数メートルでも公道を飲酒運転しないように、事故を起こさないように、代行を利用してほしい。儲けの話ではなく、道義上の責任感で苦しい場面もあることをご理解いただきたい。

4. 抑止対策について、

帯広地区では、店が、利用した客のために運転代行料金を負担して、代行業界と連携した飲酒運転させない取り組みをしているが、地域全店ではないことと、店の負担増や代行業者の待機時間のロスなど、経費や人的確保の問題で限度がある。取り組みとしては効果的と思われるが、適正料金として算出した金額を「高い」と言われる現状で、採算度外視の待機と連携は業界にとって死活問題となり、受け皿の機能が果たせなくなる。

「家に帰るまでが飲食代金」として予算を立てて飲食され、代行を利用してほしい。

まとめ

車を置いて飲むなら、バスタクシー電車などの公共交通機関利用の手段もあるが、最終便以降や、翌日の足としてどうしても車が必要であるなら、ハンドルキーパーがいなければ、車は持って帰れない。

仲間内にハンドルキーパーがいれば良いが、全員が飲んだとき、ひとりで飲んだときなどは、「運転代行は地域のハンドルキーパーであること」を思い出してほしい。

そして、「車で飲みに行くときは、帰宅までが飲食代金」ということを徹底してほしい。

飲食店にあっては、「運転する人には種類提供しません」と貼り出すだけでなく、一歩踏み込んだ確認なり声掛けなりを行ってほしい。飲酒運転するものに、いくら「するな」と言ってもそれだけでは根絶の効果は薄い。

運転代行は、地域に無くてはならない交通手段と自負しているが、いくら受け皿としてプライドを持って仕事をして、飲食店や同行者、友人、家族など、ドライバーを取り巻く環境である人々が「絶対に飲酒運転させない」という気持ちを持たなければ「飲酒運転させない環境」は作れない。

ドライバーを取り巻く全ての人々が「飲酒運転させない」という気持ちで取り組むことが必要であり、誰かがやってくれる、代行があるからそれでいい、ではないことを理解してほしい。